

平成27年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の学習意欲を高める授業を実践し、確かな学力と筋道を立てて書く力を育成する。	① 生徒に興味・関心を持って授業に取り組みせ、学力向上を図る。	教務課 全職員	昨年度後期の「学校評価アンケート」では、授業がわかりやすいと答えた生徒が80%であり、授業評価集計結果は84%であった。今後も一層の授業改善に取り組みたい。	【満足度指標】 授業がわかりやすいと感じる生徒が増えたか。	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC、Dの場合、授業方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒にアンケート調査
	② 各種検定試験を通して学習意欲を高める。	教務課 商業科	昨年度の1級3種目取得者は290名（3年156名、2年134名）であった。今年度は3年だけで160名を上回るよう指導していきたい。	【成果指標】 3年生の資格の取得の意欲が向上し、資格を取得できたか。	3年生の1級3種目の取得者が、 A 160人以上である B 155人以上である C 150人以上である D 150人未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	2月に担当課で集計
	③ ICTを有効に活用した授業を研究し、実践する。	教務課	現在50%強の教員がICT機器を有効に活用して授業を行っている。今後、すべての教員が授業改善の意識を持って機器の有効活用に取り組めるよう環境整備を進めたい。	【努力指標】 ICTを有効に活用した授業を実践する。	ICTを有効に活用した授業を実践した教員の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場合、改善策を検討する。	前期に中間集計、後期に最終集計
	④ 授業やLHの中で文章を書かせる場面をより多く設け、「筋道を立てて書く力」を育成する。	各学年 教務課 各教科	生徒の「書く力」の向上にすべての教員が関わられるよう、26年度に教員対象の研修会を実施した。	【満足度指標】 「筋道を立てて書く力が向上した」と感じる生徒が増えたか。	「筋道を立てて書く力が向上した」と感じる生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒にアンケート調査

平成27年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	昨年度は竣工式を始め来客も多く、教職員全体で朝の挨拶運動に取り組んだ結果、アンケートの数値も向上した。今年度は強化週間を設定したい。	【成果指標】 相手の顔と目を見てさわやかな挨拶ができたか。	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができた生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒にアンケート調査
	② 生徒指導が主となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課	昨年度は、遅刻0の日が71日であった。時間を守ることの大切さは、ビジネスマナーの基本であることを伝えたい。	【成果指標】 始業時間を守っているか。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 100日以上である B 80日以上である C 60日以上である D 60日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査
	③ 実践教育とマナー教育の一環である金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートでは、仕入から販売及び管理・運営など、実践教育とビジネスマナー教育の場として位置付けられており、生徒も積極的に取り組んでいる。更なる充実に向けお客様目線での改善を目指したい。	【努力目標】 金商デパートにおいて学校で学んだことを生かしたか。	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かした生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査
	④ 英会話力育成の充実に取り組む。	英語科	海外との交流事業を通して、生徒も英語によるコミュニケーション能力の重要性を実感し始めている。今後、より実践的な英会話の基礎力を育成したい。	【成果指標】 英会話の基礎的なコミュニケーション能力が生徒に定着したか。	1・2年生で全商の英検2級を取得した人数が、 A 100名以上である B 80名以上である C 60名以上である D 60名未満である	評価がC、Dの場合、英語が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	全商の英検2級の合格者を調査

平成27年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課	昨年度は雇用状況も回復し、求人数も増加した。今後、さらなる合格率の向上と、企業への定着率を促進する指導を進めたい。	【成果指標】 進路実現に向けて具体的な取り組みができたか。	ガイダンスや面接指導を通じて、希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に就職希望の3年生対象にアンケートを調査
	② 補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を高める。	進路指導課	今後本校においても、早期から進路の選択肢の一つとして上級学校への進学に目を向けさせ、進学意識を高めていく必要がある。	【成果指標】 しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組み、学力向上に努めたか。	しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組み、学力向上に努めた生徒が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に進学希望の3年生対象にアンケートを調査
	③ 1・2年次より、計画的にキャリア教育を行ない、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 各学年	行事としての進路ガイダンスの機会があまりとれず、具体的な進路設定に向けた意識はまだ低かった。今後早い段階から希望進路への取り組みが必要である。	【成果指標】 希望進路に向けた具体的な取り組みができたか。	希望する進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に2年生対象にアンケートを調査

平成27年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 4

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	平成26年度は女子バレー・野球・少林寺拳法が県大会で優勝し、団体では計6つの部活動がベスト4以上の成績を上げた。	【成果指標】 ベスト4以上の部活動が、目標を上回ることができたか。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝をのべ3競技以上を目指す。	商業科 特活課	優勝校との得点差は縮まっているが、優勝は2競技にとどまった。今年度は講習会等の活用を図ってきたい。	【成果指標】 団体での優勝が、目標を上回ることができたか。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ6競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	部活動単位でボランティア活動を行った結果、ボランティア活動に取り組む生徒の割合は向上した。	【成果指標】 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組めたか。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	後期に全生徒を対象にアンケート調査
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒がもち、自主的に行動することを目指す。	保健課	新校舎になり、清潔な環境で学習する意識が高まっている。さらに意識を高めるため、今後ポスター等で環境美化を呼びかけたい。	【成果指標】 美化委員を中心に清潔な環境の維持に努め、清掃・節電・節水やゴミ分別の意識を高められたか。	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒にアンケート調査